

No. 986

新女王にヤンツ

—中日カップ国際体操—

日本体操協会、中日新聞社共催の1972年カップ国際選抜体操競技大会は、12月2・3両日にわたって愛知県体育会で開かれました。

ミュンヘン五輪で女王に輝いたソ連のツリシチェワは、平均台で安定した演技を見せ9.70と最高点。ミュンヘン銀メダルの東ドイツのヤンツは得意の跳馬で山下跳びの1回ひねりの着地を見事決め9.80をマークしツリシチェワにせまります。

ミュンヘン五輪の熾烈にも華麗な闘いを再現した中日カップ国際体操。

ツリシチェワの得意の種目床運動。フロアをいっぱいに使って転回、宙返りひねりを見せたものの9.55。最後の種目、段違い平行棒。ヤンツはウルトラCの連続で完全に観客を魅了。9.75をマークして、70年世界選手権ミュンヘン五輪で果たせなかった女子体操の座を確得しました。

激戦地をゆく

—群馬3区—

12月10日の投票日を目前にした総選挙。各党、各候補者は最後の力をふりしぼって激しい選挙戦を展開している。群馬3区。ここでは上毛三山から吹きおろす名物「からっ風」とは別の福中戦争のからっ風が吹荒れている。福田赴夫、中曽根康弘の両候補は落選の心配はないと言われるものの、共に最高点当選をめぐる両陣営は過熱している。

福田候補が「上州内閣の実現は群馬県民の血の叫びだ。このままでは上州男児の面目が立たない。何が何でもトップで当選する」と訴えれば

中曽根候補は「私は敵の陰謀に歯をくいしばってがまんしてきた。このうらみ、くやしさをはらすため私は死んでも最高点で当選しなければならない」とやり返した。

両候補の選挙事務所には連日、観光バス十数台をして、支持者がかけつけ、観光地なみにぎわいを見せている。夜ともなれば、各地区で応援座談会が開かれ、

「郷里を売ったひきょうな男」、「そちらこそ田中ブームとは無縁の恍惚の人」といった調子でお互いに相手の攻撃舌戦がくりひろげられる。

天下を二つに分けた『福・中戦争』のからっ風は本物のからっ風よりも人々の身にしみるようだ。